

国語「国語総合」

単位数	2	学科・学年	機械土木工学科 2年	教科書 副教材等	新編国語総合（数研） 新編国語総合 学習課題ノート（数研） 常用漢字オールクリア四訂版（尚文出版）
-----	---	-------	---------------	-------------	---

学習目標	国語を適切に表現し的確に理解する能力を養い、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。
------	---

学期	学習内容	学習のねらい
1	「立ってくる春」 「管鮑の交わり」 「指」 「伊勢物語」 「ブックトーク」	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者の経験を追体験しながら読む。 ・筆者の発想と展開のおもしろさを味わう。 ・友情について考え、読解を深めさせる。 ・多くの故事成語が生まれた時代背景について理解を深める。 ・場面に即して登場人物の行動と心情を読み取り、物語を楽しんで読む。 ・ブックトークの意義を理解せさせる。
2	「コインは円形か」 「短歌と俳句」 「ナイン」 「手紙」	<ul style="list-style-type: none"> ・人間の認識が一面的になりがちであることについて理解を深める。 ・歌の解釈、歌の主題を考える。 ・作品を音読し、韻律の響きを味わう。 ・登場人物の置かれた状況、心情を時間の流れに即して考える。 ・手紙の基本形式を習得する。
3	「旅する本」 「論語」 「原稿用紙の使い方」	<ul style="list-style-type: none"> ・人物の成長と変化を読み解かせる。 ・読書という行為を考えさせる。 ・『論語』の代表的な章句を読み、儒家思想について考える。 ・自分の意見を発信させる。
評価の観点		内 容
関心・意欲・態度		・国語を伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとしたか。
話す・聞く能力		・目的や場に応じて効果的に話し的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めているか。
書く能力		・相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めているか。
読む能力		・文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させているか。
知識・理解		・伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けているか。
評価方法	定期考査、平常の学習活動・学習態度、ノート・プリント・課題などの提出物、漢字テスト、出席状況などを総合的に評価する。	

学習に対するアドバイスと留意事項
<ul style="list-style-type: none"> ○ 毎時間の授業を大切に、積極的に挙手をして発表しましょう。 ○ 教科書をよく読み、漢字や語句の意味を調べておくようにしましょう。 ○ 板書された事項以外にも大切なことは書き留め、自分が分かるノート作りを心がけましょう。 ○ 進んで読書をする習慣を身に付けましょう。 ○ 漢字は地道に覚え、漢字テストにも積極的に取り組みましょう。

地理歴史「日本史A」

単位数	2	学科・学年	機械土木工学科 2年	教科書 副教材等	高等学校 改訂版 日本史A 人・くらし・未来 (第一学習社) 改訂版 日本史Aノート (第一学習社)
-----	---	-------	---------------	-------------	---

学習目標	近現代史を中心とする我が国の歴史の展開を、世界史的視野に立ち、考察する。 歴史的思考力を培い、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。
------	--

学期	学習内容	学習のねらい
1	歴史と生活 〈近代日本の形成と国際関係の推移〉 1 近代への胎動と明治維新 2 近代国家の形成 3 国際関係の推移と近代産業	<ul style="list-style-type: none"> ・明治政府による初期の諸政策が近代日本の基礎を形成したことを理解する。 ・どのような文物が西洋から移入されたかについて具体例をあげて説明し、その後の日本文化に与えた影響について理解する。
2	〈両大戦をめぐる国際情勢〉 1 第一次大戦と日本 2 第二次世界大戦と日本 3 戦時下のくらし	<ul style="list-style-type: none"> ・条約改正において、国内外の情勢が密接に関係していたことを理解する。 ・日清・日露戦争を経て、日本は産業革命が起こり、資本主義が確立した一方アジア諸国に対して勢力の拡張を行っていったことを理解する。 ・二度の世界大戦がなぜ起こり、どのような結果・影響をもたらしたのかを理解する。
3	〈現代の日本と世界〉 1 日本の再出発 2 独立後の政治と経済の発展 3 現代の日本と世界	<ul style="list-style-type: none"> ・終戦後、連合国の占領を受けた日本がどのように復興を果たしていくのか、世界情勢とのかかわりから理解する。 ・経済大国となった日本の課題と、国際社会に果たすべき役割について理解しその中で、個人として果たすべき役割について考える。

評価の観点	内容
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動に積極的に参加しているか。 ・我が国の歴史に対する関心と課題意識を持ち、意欲的に追究できているか。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・我が国の歴史の展開から課題を見だし、多角的に考察し、また公正に判断できるか。
資料活用の技能	<ul style="list-style-type: none"> ・我が国の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的な事象を追究する方法を身に付けるとともに、考察した結果を適切に表現できるか。
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を、我が国を取り巻く国際環境などと関連付けながら理解できているか。
評価方法	<p>学習の状況は、「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「資料活用の技能」、「知識・理解」の四つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取組」、「提出物（ノート）」、「定期考査」により評価します。また学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の相加平均とし、5段階法でも評定を行います。</p>

学習に対するアドバイスと留意事項
<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業では、日本史Aノートを使います。作業や復習のページも確実に記入してください。 ○ 質問をよく聞き、積極的に挙手・発表してください。 ○ 定期考査前には、復習プリントをもう一度確認すると良い結果につながります。 ○ 現代の日本の動向に関心を持ち、ニュースや新聞で情報を収集しましょう。

地理歴史「地理A」

単位数	2	学科・学年	機械土木工学科 2年	教科書 副教材等	高等学校 新地理A (帝国書院) 標準高等地図—地図でよむ現代社会— 高等学校 新地理Aノート (帝国書院)
-----	---	-------	---------------	-------------	--

学習目標	世界の人々の生活・文化に関する地域的特色と共通の課題を理解し、世界を大小様々な地域的まとまりから考察させることによって、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に生きる日本人としての自覚と資質を養う。
------	--

学期	学習内容	学習のねらい
1	第1部 世界の諸地域の姿と地球的課題 1章 地球儀や地図からとらえる現代世界 2章 人間生活を取り巻く環境	<ul style="list-style-type: none"> 地球儀や地図を使いこなすための知識と技能を学ぶ。 交通や情報網の発展、貿易の拡大など、活発化する人・モノの移動について、私たちの生活とのかかわりから理解する。 各地に多様性をもたらす地形、気候といった自然環境と、民族、宗教などの社会環境が、人々の生活に及ぼす影響について理解する。
2	3章 世界の諸地域の生活・文化	<ul style="list-style-type: none"> アジア、ヨーロッパ、南北アメリカ、アフリカ、オセアニアなど、具体的な地域の事例を通して、自然環境、社会環境と各地の生活・文化とのかかわりについて理解する。
3	4章 地球的課題と私たち 第2部 身近な地域の課題 1章 身近にあるさまざまな地図 2章 日本の自然環境と防災 3章 身近な地域の課題と地域調査	<ul style="list-style-type: none"> 地域的課題について、原因を考察し、解決のためにはどのような取組や協力が必要かを理解する。 地図の特性やGISの仕組みを理解する。 日本の地形や気候の特徴を捉え、起こりやすい自然災害について考察する。
評価の観点		内 容
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> 学習活動に積極的に参加しているか。 世界地理に関心を持ち、意欲的にそれらを探究する態度を身に付けているか。 	
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 資料を活用して、総合的に思考・判断しているか。 世界の多様性について、各地の自然環境と社会環境から考察しているか。 地球的課題の背景とその複雑性について、多角的に考察しているか。 	
資料活用の技能	<ul style="list-style-type: none"> 資料を活用して課題の内容を分かりやすく表現しているか。 世界各地の多様性を写真等から読み取っているか。 地球的課題について資料から必要な情報を正確に読み取っているか。 	
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> 世界各地を地域ごとに区分し、世界各地の結び付きを理解しているか。 自然環境や社会環境が世界各地の多様性の背景になっていることを理解しているか。 	
評価方法	出席、授業態度・取組、提出物（ノートなど）、定期考査により評価します。 学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の相加平均とし、5段階法でも評定を行います。	

学習に対するアドバイスと留意事項
<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業は必要に応じ、板書します。板書しなかったことも意欲的に、ノートにとってください。 ○ 演習プリント等はノートに張り付けてください。 ○ 先生の話をよく聞き、積極的に挙手・発表をしてください。 ○ 定期考査前には、教科書を読み返し、ノートを復習すると良い結果につながります。

数学「数学Ⅱ」

単位数	2	学科・学年	機械土木工学科 2年	教科書 副教材等	改訂版 新 高校の数学Ⅱ (数研出版) 改訂版ポイントノート数学Ⅱ (数研出版)
-----	---	-------	---------------	-------------	---

学習目標	式と証明、三角関数、指数関数の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育成する。
------	--

学期	学習内容	学習のねらい
1	第3章 三角関数 1 三角比 2 一般角 3 三角関数 4 三角関数の相互関係 5 三角関数の性質 6 三角関数のグラフ 7 加法定理	<ul style="list-style-type: none"> 「数学Ⅰ」で指導した三角比を、一般角を導入することによって関数まで発展させ、三角関数の間の関係を学習する。 三角関数のグラフをかき、変化の特徴を理解する。 三角関数の加法定理を導き、それを使っているような計算ができるようにする。
2	8 いろいろな公式 9 弧度法 第4章 指数関数と対数関数 第1節 指数関数 1 指数の拡張(1) 2 累乗根 3 指数の拡張(2) 4 指数関数のグラフ 第2節 対数関数 1 対数 2 対数の性質 3 対数関数のグラフ 4 常用対数	<ul style="list-style-type: none"> 弧度法を導入し、扇形の弧の長さや面積を求められるようにする。 指数を整数、有理数まで拡張し、指数法則が成り立つことを理解する。 指数法則を使って、簡単な計算ができるようにする。 指数関数を定義し、その基本的な性質を理解し、グラフの概形がかけられるようにする。 対数を定義し、その基本的な性質を理解し、簡単な計算ができるようにする。 対数関数を定義し、その基本的な性質を理解し、グラフの概形がかけられるようにする。
3	第1章 複素数と方程式 第1節 式の計算 1 式の展開と因数分解 2 二項定理 3 分数式の計算 第2節 複素数と方程式 1 複素数 2 2次方程式の解と判別式 3 解と係数の関係 4 整式のわり算 5 因数定理 6 高次方程式 第3節 式と証明 1 等式の証明 2 不等式の証明	<ul style="list-style-type: none"> 分数式の乗法・除法および加法・減法を理解する。 虚数単位、複素数を定義し、四則演算ができるようにする。 整式の除法について理解する。 解の公式を用いて、2次方程式を解けるようにする。 3次以上の高次方程式を解けるようにする。 等式、不等式の証明ができるようにする。

評価の観点	内容
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> 数学的活動を通して、式と証明、三角関数、指数関数における考え方に関心を持っている。 数学的な見方や考え方のよさがわかり、それらを様々な事柄の考察に積極的に活用しようとしている。
数学的な見方や考え方	<ul style="list-style-type: none"> 数学的活動を通じて、式と証明、三角関数、指数関数における数学的な見方や考え方を持っている。 様々な事柄を数学的にとらえて論理的に考えるとともに、考えた道筋を振り返っているような解法を考えたり、さらに問題を発展的に考えることができる。
数学的な技能	<ul style="list-style-type: none"> 様々な事柄を数学的にとらえ、公式、計算法則などを身に付け、よりよく問題を解決することができる。
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> 式と証明、三角関数、指数関数における基本的な意味や原理・法則、用語・記号などを理解し、数学的な知識を身に付けている。
評価方法	<p>学期全体の評価は、4つの観点による評価、中間考査、期末考査、提出物、学習活動への参加の仕方や態度等を総合して行います。</p> <p>年間の評価は、1学期の評価、2学期の評価及び3学期の評価を総合して行います。</p>

学習に対するアドバイスと留意事項
<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業の開始のチャイムが鳴るまでに、教科書・ノート・筆記用具を準備して各自着席を完了し、授業がすぐ始められるようにすること。 ○ 試験だけでなく毎日の授業態度の様子も重視するので、授業には積極的に参加すること。 ○ 板書しなかったことも意欲的にノートに取り、提出物等は提出期限を守ること。 ○ エスタブリッシュメントテスト(小テスト)の勉強をしっかりすること。

数学「数学A」

単位数	2	学科・学年	機械土木工学科 2年	教科書 副教材等	改訂版 新編 数学A (数研出版) " Study-Up ノート数学A (数研出版)
-----	---	-------	---------------	-------------	---

学習目標	場合の数と確率、図形の性質または整数の性質について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を養い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。
------	--

学期	学習内容	学習のねらい
1	第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数 第2節 確率	<ul style="list-style-type: none"> ・ 樹形図を用いて、場合の数の数え上げができる。 ・ 順列や組合せの考え方を具体的な事象の考察を通して考えさせる。 ・ 事象が同様に確からしい場合の確率が求められる。 ・ 具体例を通して期待値を取り上げ、その意味を理解し、活用できる。
2	第2章 図形の性質 第1節 平面図形 第2節 空間図形	<ul style="list-style-type: none"> ・ 角の二等分線、三角形の重心、内心、外心などの性質を理解できる。 ・ 円と直線を動的にとらえて、それらの位置関係を考察することができる。 ・ 空間における2直線、2平面の位置関係やなす角を理解している。 ・ 正多面体の特徴を理解し、面、頂点、辺の数を求めることができる。
3	第3章 整数の性質 第1節 約数と倍数 第2節 ユークリッドの互除法 第3節 整数の性質の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 約数、倍数の意味を理解し、さらに自然数の素因数分解ができる。 ・ 互除法によって最大公約数が求められることに興味・関心を持つ。 ・ 整数をある正の整数で割った余りで分類して、簡単な整数の性質を証明することができる。
評価の観点		内 容
関心・意欲・態度		・ 場合の数と確率、図形の性質または整数の性質における考え方に興味を持つとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとしているか。
数学的な見方や考え方		・ 場合の数と確率、図形の性質または整数の性質において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けているか。
数学的な技能		・ 場合の数と確率、図形の性質または整数の性質において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けているか。
知識・理解		・ 場合の数と確率、図形の性質または整数の性質における基本的な概念、原理、法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付けているか。
評価方法	学習の状況は、「関心・意欲・態度」、「数学的な見方や考え方」、「数学的な技能」、「知識・理解」の4つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取組」、「小テスト」、「提出物(ノート・プリント等)」、「定期考査」により評価します。また、学年の成績は上記の観点から評価した各学期の成績の相加平均とし、5段階法でも評価します。	

学習に対するアドバイスと留意事項
<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業は必要に応じ、板書します。板書しなかったことも意欲的に、ノートにとってください。 ○ 演習プリント等はノートに張り付けてください。 ○ 場合の数と確率では、さいころやトランプなどを実際に使って理解を深めてください。 ○ 図形の性質では、図形を定規やコンパス等を使って丁寧に書いてください。 ○ 専門的な内容になります。予習、復習をしっかりとってください。

理科「物理基礎」

単位数	2	学科・学年	機械土木工学科 2年	教科書 副教材等	高等学校 改訂 新物理基礎 (第一学習社)
-----	---	-------	---------------	-------------	--------------------------

学習目標	物理的な事象・現象の学習を通して、自然に関する関心、探究しようとする能力と態度を身に付けるとともに、基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を養う。
------	--

学期	学習内容	学習のねらい
1	第1章 力と運動 第1節 物体の運動 第2節 力と運動の法則	<ul style="list-style-type: none"> 等速直線運動、等加速度直線運動を理解し、式で表すことができる。 力と運動の関係を理解し、物体に働く力を図示するなど、応用することができる。
2	第II章 エネルギー 第1節 仕事と力学的エネルギー 第2節 熱とエネルギー 第III章 波動 第1節 波の性質 第2節 音波	<ul style="list-style-type: none"> 等速直線運動、等加速度直線運動を理解し、式で表すことができる。 力と運動の関係を理解し、物体に働く力を図示するなど、応用することができる。
3	第IV章 電気 第1節 電荷と電流 第2節 電流と磁場 第3節 エネルギーとその利用	<ul style="list-style-type: none"> 電流のエネルギーについて、電力と電力量を計算で求められるようになる。 右ねじの法則を学び、電流による磁界について理解する。 人類が利用可能な様々なエネルギーの特性や利用について、物理的な視点から理解する。

評価の観点	内容
関心・意欲・態度	・物理基礎の内容に興味・関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとしているか。
思考・判断・表現	・物理基礎の事象や現象の中に問題を見だし、探求する過程を通して、事象を科学的に考察し的確に表現できるか。
観察・実験の技能	・基本的な実験の技能を習得するとともに、過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事象を科学的に探求する技能を身に付けているか。
知識・理解	・物理基礎の基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けているか。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 授業中の諸活動 (小テスト、実験 (取組、レポート)、発表、授業プリント、課題) 学年の成績は上記の観点から評価した各学期の成績の相加平均とし、5段階でも評価します。

学習に対するアドバイスと留意事項
<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 授業中の諸活動 (小テスト、実験 (取組、レポート)、発表、授業プリント、課題) 学年の成績は上記の観点から評価した各学期の成績の相加平均とし、5段階でも評価します。

保健体育「体育」

単位数	2	学科・学年	機械土木工学科 2年	教科書 副教材等	最新高等保健体育（大修館） アクティブスポーツ [総合版]（大修館）
-----	---	-------	---------------	-------------	---------------------------------------

学習目標	各種の運動の合理的な実践を通して、運動の技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正・協力・責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。
------	---

学期	学習内容	学習のねらい
1	1 体育の学習について 2 集団行動 3 体づくり運動 4 球技選択 5 武道 6 体育理論	<ul style="list-style-type: none"> ・「体育」学習の意義や内容、評価の方法を理解する。 ・集団行動の意義や行い方を理解する。 ・体ほぐしの運動をする。自分の体力の実態を知るために体力テストをする。 ・練習やゲームを通して、運動の技能や体力を高め、公正・協力・責任などの態度を培う。 ・武道にふれあう機会を通して、武道に関する理解と総合的な体力を高める。 ・基礎的な知識は、意欲、思考力、運動の技能などの源となるものであり、確実な定着を図る。
2	1 集団行動 2 体づくり運動 3 球技選択 4 武道 5 陸上競技(長距離走)	<ul style="list-style-type: none"> ・体育祭での集団演技を規律よくできるようにする。 ・体力を高める運動をする。 ・自己に適したペースで走ることができるようにする。自己記録が更新できるようにする。
3	1 体づくり運動 2 球技選択 3 体育理論	<ul style="list-style-type: none"> ・体力を高める運動をする。 ・基礎的な知識は、意欲、思考力、運動の技能などの源となるものであり、確実な定着を図る。
評価の観点		内 容
関心・意欲・態度		運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるように自ら進んで運動をしようとする。また、公正・協力・責任などの態度を身に付けるとともに、健康・安全に留意して運動をしようとする。
思考・判断		自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、活動の仕方を考え、工夫している。
運動の技能		自己の能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して運動を行うとともに、運動の技能を高めている。また、自己の体力や生活に応じて体力を高めるための運動の合理的な行い方を身に付けている。
知識・理解		社会の変化とスポーツ、運動技能の構造と運動の学び方、体ほぐしの意義と体力の高め方に関する基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。
評価方法	「関心・意欲・態度」「思考・判断」「運動の技能」「知識・理解」の4観点で総合的に評価します。	

学習に対するアドバイスと留意事項

- 積極的に活動に取り組んで運動の技能や体力を高め、公正・協力・責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てること。
- 体育の授業では、「敏速正確な集合」「清潔端正な服装」「礼儀作法の重視」「用具の整理整頓」「体力の増強」を心掛けること。

保健体育「保健」

単位数	1	学科・学年	機械土木工学科 2年	教科書 副教材等	最新高等保健体育（大修館） 最新高等保健体育ノート（大修館）
-----	---	-------	---------------	-------------	-----------------------------------

学習目標	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していくための資質や能力を育てる。
------	--

学期	学習内容	学習のねらい
1	1 思春期と健康 2 性意識と性行動の選択 3 結婚生活と健康 4 妊娠・出産と健康 5 家族計画と人工妊娠中絶 6 加齢と健康 7 高齢者のための社会的とりくみ 8 保健制度と保健サービスの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・思春期における体の発達や行動・心理面の特徴、性意識の男女差を理解し、性行動を選択できる。 ・結婚生活の重要性や妊娠・出産の過程を理解し、結婚生活を営むための留意点を説明できる。 ・家族計画の意義と避妊法および人工妊娠中絶の条件や心身に及ぼす影響を理解する。 ・中高年期を健やかに過ごすための留意点、高齢者の健康問題や総合的対策、保健行政の役割や仕組み、保健サービスについて理解する。
2	1 医療制度と医療費 2 医療機関と医療サービスの活用 3 大気汚染と健康 水質汚濁と健康 土壌汚染と健康 4 健康被害の防止と環境対策 5 環境衛生活動のしくみと働き 6 食品衛生活動のしくみと働き 7 食品と環境の保健と私たち	<ul style="list-style-type: none"> ・医療保険の仕組みを理解し、医療機関の選び方や医療情報の収集方法を知る。 ・大気汚染や水質汚濁、土壌汚染の原因や起こり方、健康への影響について理解する。 ・環境汚染の防止・改善への対策を理解し、ごみ処理の過程やし尿・下水道の整備について問題点や対策を挙げるができる。 ・食品衛生管理や食品の安全性のための対策例について理解する。
3	1 働くことと意義 2 労働災害・職業病と健康 3 健康的な職業生活 4 課題解決学習	<ul style="list-style-type: none"> ・働くことと健康の相互影響を理解する。 ・労働災害の防止対策や職場の健康管理の必要性、職場や日常生活での健康増進を理解する。 ・単元の中からテーマを選び、調べ学習を行い、レポート提出や発表することができる。
評価の観点		内 容
関心・意欲・態度	個人生活や社会生活における心身の健康や安全に関心を持ち、自ら健康で安全な生活を実践するため、意欲的に学習に取り組もうとする。	
思考・判断	個人生活や社会生活における心身の健康や安全に関する課題の解決を目指して、科学的に思考し、総合的にとらえることにより、適切な意思決定を行い、選択すべき行動を適切に判断している。	
知識・理解	健康・安全の意義を理解するとともに、現代社会と健康、生涯を通じる健康及び社会生活と健康について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。	
評価方法	「関心・意欲・態度」「思考・判断」「知識・理解」の3観点から評価します。定期考査・授業の観察・保健ノートや課題の提出・発表などを通じて評価します。	

学習に対するアドバイスと留意事項
<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業は必要に応じて板書するので、保健ノートに丁寧に整理をして書いていくこと。 ○ 先生の話をよく聞き、身近な日常生活と結び付けて考えていくと理解しやすい。 ○ 図説を大切にし、学習の内容を確認するために保健ノートの問題を解いていくこと。

英語「コミュニケーション英語Ⅱ」

単位数	2	学科・学年	機械土木工学科 2年	教科書 副教材等	VISTA English Communication II New Edition (三省堂)
-----	---	-------	---------------	-------------	---

学習目標	情報や相手の考えなどを理解したり、自分の意見や考えなどを適切に伝えたりするために必要な言語運用能力を身に付けさせる。
------	--

学期	学習内容	学習のねらい
1	Lesson 1 Birthdays, Here and There	・疑問詞節、If 節を理解する。
	Lesson 2 The Emerald Isle	・比較を理解する。
	Lesson 3 The Sagrada Familia	・名詞を修飾する分詞を理解する。
2	Lesson 4 Nobel Prize Episodes	・知覚動詞を理解する。
	Lesson 5 Flowers in the Tomb	・使役動詞、関係代名詞を理解する。
	Lesson 6 Becoming the Best	・how to~, It seems that を理解する。
3	Lesson 7 The Galapagos Islands	・現在完了進行形、形式目的語を理解する。
	2年生の復習	・既習事項を再確認する。

評価の観点	内容
コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	・コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとしているか。
外国語表現の能力	・外国語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えようとしているか。
外国語理解の能力	・外国語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解しているか。
言語や文化への 知識・理解	・外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けているとともに、その背景にある文化などを理解しているか。
評価方法	定期考査、平常の学習活動・学習態度、ノート・課題などの提出状況、小テスト、出席状況などにより総合的に評価する。

学習に対するアドバイスと留意事項
<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業には、本文をノートに書き写す、単語を調べるなど予習をして臨みましょう。 ○ 板書した内容をきちんとノートにとってください。 ○ 授業で用いたプリント（訳プリント、評価問題など）は、ノートに貼り付けてください。 ○ 本文を繰り返し読み、確実に読めるようにしましょう。 ○ ペアワークや音読練習などに積極的に取り組んでください。 ○ 単語は地道に覚えるしかありません。毎月の英単語テストにも意欲的に取り組み、しっかり語彙力を付けていきましょう。

英語「英語会話」

単位数	2	学科・学年	機械土木工学科 2年	教科書 副教材等	SELECT ENGLISH CONVERSATION (三省堂)
-----	---	-------	---------------	-------------	--------------------------------------

学習目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、身近な話題について会話する能力を養う。
------	--

学期	学習内容	学習のねらい
1	Lesson1 New Friends	・未来表現、不定詞を理解する。
	Lesson2 Free Time	・現在形、過去形を理解する。
	Lesson3 Are you Okay?	・助動詞 should を理解する。
	Lesson4 Our School	・There is / are～を理解する。
2	Lesson5 Weather	・助動詞 will を理解する。
	Lesson6 TV Programs	・動名詞を理解する。
	Lesson7 Talking on a Call Phone	・現在完了形を理解する。
	Lesson8 Telling the Way	・SVOO を理解する。
	Lesson9 Kyoto	・How long～を理解する。
3	Lesson10 Shopping	・現在進行形、SVC を理解する。
	Lesson11 Restaurant	・不定詞の形容詞的用法を理解する。
	Lesson12 Making a Plan	・Let's ～、Shall we～を理解する。
	Lesson13 Future Jobs	・Why-Because 不定詞の副詞的用法を理解する。

評価の観点	内容
コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	・身近な題材の中で、積極的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとしているか。
外国語表現の能力	・外国語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えようとしているか。
外国語理解の能力	・外国語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解しているか。
言語や文化への 知識・理解	・外国語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解しているか。
評価方法	定期考査、平常の学習活動・学習態度、ノート・課題などの提出状況、出席状況などにより総合的に評価する。

学習に対するアドバイスと留意事項
<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業で配布したプリントを整理し、ノートにまとめること。 ○ KEY EXPRESSIONS を繰り返し音読し、覚えること。 ○ ディクテーションに積極的に取り組むこと。 ○ ペアワークや口頭での英問英答に積極的に取り組むこと。

家庭「家庭総合」

単位数	1	学科・学年	機械土木工学科 2年	教科書 副教材等	家庭総合 自立・共生・創造 (東京書籍) 家庭科ノート (愛媛県高等学校家庭科教育研究会) 調理実習ノート (愛媛県高等学校家庭科教育研究会)
-----	---	-------	---------------	-------------	---

学習目標	家族や生活の営みを人の一生とのかかわりの中からとらえ、人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活などに関する知識と技術を総合的に習得し、生活する上での様々な課題を解決するために、家庭生活の充実向上を図る力と実践的な態度を身に付ける
------	---

学期	学習内容	学習のねらい
1	1 高齢者とかかわって生きる <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の心身の特徴と生活 ・豊かな高齢期を迎えるしくみ ・高齢者が自立するために私達ができること 実習 高齢者向けの季節の和菓子 プレゼント作成 2 経済的に自立する <ul style="list-style-type: none"> ・家庭の経済生活 実習 一人暮らしをするための予算計画 (食費、住居費、生活費調査)	<ul style="list-style-type: none"> ・加齢に伴う心身の変化と特徴、配慮すべき点について理解する。 ・介護保険制度のしくみやサービスの内容などを理解する。 ・近くに住まわれる独居老人の定期的に訪問し、家庭・地域・社会の連携をどうすればいいか考える。 ・一人暮らし計画シミュレーションを通して、家庭の経済生活に関する基礎的な事項や予讃生活の必要性について理解する。
2	3 消費行動を考える <ul style="list-style-type: none"> ・生活情報と消費者としての意思決定 ・消費の権利と責任 4 住生活をつくる <ul style="list-style-type: none"> ・住居の機能 ・実習 一人暮らしのための住まい選びと家財道具の買い物シミュレーション 	<ul style="list-style-type: none"> ・消費行動において、意思決定のプロセスを理解する。 ・消費者信用について理解し、クレジットカードの仕組みや利用上の留意事項を理解する。 ・住居の機能や人と住居とのかかわりを想定した家族や住居を基に考える。 ・一人暮らしの住まいを想定し、適切な情報を収集し、活用する力を身に付ける。
3	5 子どもとかかわって生きる <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達 ・親の役割と保育 ・実習 幼稚園訪問 6 社会とかかわって生きる <ul style="list-style-type: none"> ・支えあう暮らしとは 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境について理解する。 ・実習を通して、子どもと適切にかかわることができるようにする。 ・子どもの健全な発達を支える親の役割や国や地域の社会的「支援について考える。 ・家族、子ども、高齢者を支える社会福祉の重要性について考える。

評価の観点	内 容
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者や子ども、消費生活に関心を持ち、意欲的に学習に臨んでいるか。 ・家族や家庭生活に関心を持ち、意欲的に授業に参加しているか。 ・学んだ事を生かそうとする実践的な態度を身に付けようとしているか。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・学習したことを自分の家庭生活にかかわらせて考えることができているか。 ・体験的な学習や自分の生活の中で課題を見つけ、その解決に向けて具体的な改善策を考えられているか。
技能	<ul style="list-style-type: none"> ・生活上の問題解決や工夫のために必要な技術を身に付けているか。 ・家庭生活の充実向上を目指して、自分の考えを的確に表現することができるか。
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・家族との生活や消費生活の意義と役割を理解できたか。 ・家庭生活に関する基礎的・基本的な知識を身に付けているか。
評価方法	学習の状況は、「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「技能」、「知識・理解」の四つの観点で評価します。具体的には、「授業態度・取組」「提出物(学習の記録・感想)」、「作品」、「小テスト」、「定期考査」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とします。

学習に対するアドバイスと留意事項
<ul style="list-style-type: none"> ○ 家庭科は、実験・実習などの体験活動より、技術や知識を身に付ける教科です。失敗を恐れず、積極的に取り組む姿勢が大切です。また、学習したことを定着させるために、積極的に家事にかかわりましょう。 ○ 教科書に準じたオリジナルプリントを配布します。自分なりに分かりやすいプリントになるよう記入を工夫し、ファイリングを確実にしましょう。

機械土木工学「課題研究」

単位数	2	学科・学年	機械土木工学科・2年	教科書 副教材等	自作テキスト
-----	---	-------	------------	-------------	--------

学習目標	<p>インターンシップを通して、職業適性や将来設計について考える機会を与え、主体的な職業意識の育成や職業選択の能力を養う。</p> <p>コミュニケーション能力や問題解決能力を養うことにより、社会人になるための心構えを持たせる。</p> <p>3年生の「課題研究」におけるテーマを研究する。</p>
------	---

学期	学習内容	学習のねらい
1	<p>インターンシップ事前指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ趣旨説明会 ・体験事業所希望調査 	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップの趣旨と意義を理解する。 ・将来の進路選択を考え就業体験の事業所を決定する。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・個人カードの作成 ・インターンシップ礼法・安全指導 <p>インターンシップの実施（5日間）</p> <p>インターンシップ事後指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップの反省 ・礼状、感想文の作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の理解を得るために個人カードを作成する。 ・礼儀作法や安全作業の講演を聞き、それらを心がける気持ちや態度を育成する。 ・体験先で学んだことやお礼などを考えた感想文を作成する。・発表会の資料を作成する。
3	<p>インターンシップ発表会</p> <p>3年生の課題研究への下準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験先で学んだこと、1年生に伝えることで、体験した内容の理解を深める。 ・課題研究の目的と内容について学習し、テーマを決める。

評価の観点	内容
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・正しい服装や安全に心掛け、興味・関心を持って自主的に取り組み、責任感や意欲を持って熱心に作業する態度を身に付けている。 ・指導者の注意や指示を守り、自分の仕事分担を意欲的に行っている。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・職場で必要な仕事の手順や上下の人間関係などを考えることができている。 ・発表の仕方（プレゼンテーション）を考え、工夫の跡が見られている。 ・課題研究のテーマを真剣に考え、実行可能かどうかの判断ができている。
技能	<ul style="list-style-type: none"> ・就業体験で、責任感・協調性（コミュニケーション能力）を身に付けている。 ・記録の作成において、誤字脱字がなく要点を分かりやすくまとめている。 ・発表において、考えを的確に明瞭な声で表現できている。
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・就業体験の内容を理解し、必要な知識・技術の習得に努力している。 ・就業体験を通して職業選択能力や望ましい勤労観・職業観を身に付けている。 ・3年生で行う課題研究の内容を理解している。
評価方法	<p>2年生の「課題研究」の評価については、インターンシップを導入しているため、観点別評価規準を作成し、インターンシップの事前・事後指導や実施記録、教員による巡回日誌、事業所の評価等の項目別評価規準を作成し、各項目ごとに評価の観点を示すとともに、5段階の評価をし、その内容の重み（ウェイト）を掛け評価点を決めます。</p>

学習に対するアドバイスと留意事項
<ul style="list-style-type: none"> ○ インターンシップの趣旨を理解し、将来の生き方や進路について真剣に考えてください。 ○ 職場ではコミュニケーションをとり、言葉遣いや礼儀作法、安全に気をつけてください。 ○ 記録は、事業所の方も見られるので、ていねいに記録することを心掛けてください。 ○ 3年生の課題研究の内容は製作、研究・調査、資格検定などです。色々挑戦してください。

機械土木工学「実習」

単位数	4	学科・学年	機械土木工学科・2年 (機械コース)	教科書 副教材等	機械実習 1、2 (実教出版)
-----	---	-------	-----------------------	-------------	-----------------

学習目標	機械技術に関する科目の総合的な学習をする。機械技術者として望ましい態度や習慣を身に付ける。
------	---

学期	学習内容	学習のねらい
1	1 手仕上げ・溶接実習 けがき、穴あけ、やすり加工、ねじ加工 ガス切断基本作業、CO ₂ アーク半自動溶接練習、ガス溶接作業 2 旋盤実習 安全作業、切削条件と刃先角、端面及び外径加工、溝加工とローレット加工、おねじ切り加工、内径加工とめねじ切り加工	<ul style="list-style-type: none"> 手仕上げ作業の基礎知識を身に付け、手仕上げの基本操作を習得する。 アーク溶接、ガス溶接・切断作業の基礎知識を身に付け、溶接・切断の基本操作を習得する。 事故防止に努めながら安全に作業する心構えを持たせる。 旋盤作業の基礎知識を身に付け、旋盤の基本操作を習得する。
2	3 特殊機械実習 小型万力各部品加工、フライス盤、の取り扱いと各種加工 4 マシニングセンタの実習 CAD・CAMについて 座標系と原点・工具長補正の設定 ネームプレートの製作	<ul style="list-style-type: none"> フライス盤作業の基礎知識を身に付け、各種部品の加工をしながら技能を習得する。 各種特殊機械の各種加工を通して基本的な取扱いや操作方法を習得する。 ネームプレートの製作を通してマシニングセンタの基本操作を習得する。 CAD/CAMの流れを覚え、操作を習得する
3	5 実験 流体機械実験 (渦巻ポンプ・ペルトン水車の性能測定) 原動機実験 (内燃機関の性能試験、分解・組立)	<ul style="list-style-type: none"> 各実験に関する基礎知識を身に付け、実験の方法を学習する。 内燃機械の性能や機構、構造を理解する。

評価の観点	内 容
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度（作業、服装、聞く、ノート等）が真面目であるか。 学習活動（出席の状況や質問、返答等）を積極的に行っているか。 機械実習に関心を持ち、安全に気をつけ意欲的な作業態度であるか。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 適切な作業手順を考えることができるか。 作業内容の善し悪しを総合的に判断できるか。 はっきりとした声で自分の考えが表現できているか。
技能	<ul style="list-style-type: none"> 作業の手順を守り、技術・技能の向上が図られているか。
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> 作業に対する基礎的な知識を身に付けているか。 作業内容を理解し、的確な作業ができているか。
評価方法	<p>学習の状況は、上記の四つの観点で評価します。 「提出物（レポート等）」等による評価も行います。 各学期の成績は以上の観点から評価し100点法で行います。 学年末の成績は各学期の成績を総合的に判断し5段階評定で行います。</p>

学習に対するアドバイスと留意事項
<ul style="list-style-type: none"> ○ 安全に作業するには、「きまり」を守り、作業に適した正しい服装（実習服）を着用してください。 ○ 作業をするにあたっては、気持ちを集中させ、真剣に取り組んでください。 ○ 教科書、電卓、レポート用紙、筆記用具等を持参してください。 ○ 報告書（レポート）はその日の内に書くようにし、提出日を守りましょう。

機械土木工学「製図」

単位数	3	学科・学年	機械土木工学科・2年 (機械コース)	教科書 副教材等	機械製図 (実教出版)
-----	---	-------	-----------------------	-------------	-------------

学習目標	製図や機械要素について、JIS に定められた製図に関する規格を理解し、それらの製図の作成についての知識・技術を身に付ける。
------	---

学期	学習内容	学習のねらい
1	第1章 製図の基礎 1 機械製図と規格 2 製図用具とその使い方 3 図面に用いる文字と線 4 基礎的な図形のかき方 5 投影図のえがき方 6 立体的な図示法	<ul style="list-style-type: none"> 日本工業規格、国際標準化機構を理解する。 製図道具の基本的な使い方を習得する。 製図に用いる線と文字を正しくきれいにかつ迅速に描けるようにする。 基礎的な図形のかき方を理解し、正しくきれいにかつ迅速に描けるようにする。
2	第2章 製図 1 製図のあらまし 2 図形の表し方 3 寸法記入法 4 公差・表面性状 5 スケッチ	<ul style="list-style-type: none"> 製図の製図に欠かせない基本的な考え方や技術・手法を確実に身に付ける。 製図特有の図示方法を学び、活用できるようになる。 基本的な寸法記入法を理解し、図面に適した寸法記入法を考える。 公差・面の肌の基本事項を理解し、図示方法を理解する。 機械のスケッチ方法を理解し、スケッチから製図を作成する。
3	第4章 機械要素の製図 1 ねじ 2 軸と軸継手 3 軸受	<ul style="list-style-type: none"> ねじの基本的な知識を習得し、簡略図示などを身に付ける。 軸・キー・スプライン・ピンの基本事項を理解し、軸継手の製図を作成する。

評価の観点		内 容
関心・意欲・態度		<ul style="list-style-type: none"> 授業に対しまじめに取り組んでいるか。(忘れ物はないか) 学習活動(出席状況・作図・質問・返答など)は積極的であるか。 機械製図に関心を持ち、規格通りに作図が行えているか。
思考・判断・表現		<ul style="list-style-type: none"> 適切な作図手順を考えることができるか。 作業内容の善し悪しを総合的に判断できるか。 適切な道具や図示方法が選択できるか。
技能		<ul style="list-style-type: none"> 規格を守り、技術・技能の向上が図られているか。 ていねいで美しい作品に仕上がっているか。 提出期限は守られているか。
知識・理解		<ul style="list-style-type: none"> 作図に対する必要な知識を身に付けているか。 規格を正しく理解し、使用しているか。
評価方法	学習の状況は、上記の四つの観点で評価します。 提出物(作品・練習課題など)による評価も行います。 各学期の成績は、以上の観点から評価し100点法で行います。 学年末の成績は、各学期の成績を総合的に判断し5段階評定で行います。	

学習に対するアドバイスと留意事項
<ul style="list-style-type: none"> ○ 忘れ物をしないように心掛け、規格を守る気持ちで作図してください。 ○ 提出期限は必ず守るように心掛けてください。 ○ 気持ちを集中させ真剣に取り組み、美しい図面となるよう努力してください。

機械土木工学「機械工作」

単位数	3	学科・学年	機械土木工学科・2年 (機械コース)	教科書 副教材等	新機械工作 (実教出版)
-----	---	-------	-----------------------	-------------	--------------

学習目標	<p>機械工作に関する基礎的な知識と技術を理解する。 加工技術を自然法則と関連付けて考察し、科学的、工学的思考力を養う。 機械工作を機械材料、計測、生産管理を含めて総合技術として学び、実際に活用する能力と態度を身に付ける。</p>
------	---

学期	学 習 内 容	学 習 の ね ら い
1	第1章 製品をつくる 1 製品のつくり 2 製品のできるまで 第2章 機械材料 1 機械的性質とその測定 2 金属の結晶構造 3 鉄鋼材料 4 非鉄金属材料 第3章 鋳造 1 鋳造法と鋳型 2 鋳物材料の溶解	<ul style="list-style-type: none"> 身のまわりの製品には、さまざまな材料が使われていることを理解させる。 引張強さ、硬さ、じん性と疲労などの機械的性質と測定方法について理解させる。 鋼の変態、炭素鋼の平衡状態図について理解させ、鋼の熱処理の目的と方法について理解させる。 砂型鋳造法・金型鋳造法に特徴について理解させる。
2	第4章 溶接・接合 1 溶接 2 接合 第5章 塑性加工 1 素材加工 2 成型加工 第6章 切削加工 1 切削による加工 2 切削工具 3 切削加工の効率化 第7章 砥粒加工 1 研削加工 2 研磨加工	<ul style="list-style-type: none"> ガス溶接およびガス切断のしくみについて理解させる。 アーク溶接のしくみについて理解させる。 塑性加工の概要について理解させ、圧延加工、せん断・曲げ加工のしくみについて理解させる。 切削のしくみ、切削抵抗、切削工具の種類と特徴について理解させる。 研削加工のしくみについて理解させる。 砥石の構成要素およびそれぞれの要素の働きを理解させる。
3	第8章 特殊加工と表面処理 1 特殊加工 第9章 生産の自動化 1 数値制御工作機械 2 産業用ロボット 3 工場の自動化	<ul style="list-style-type: none"> 特殊加工と表面処理の概要について理解させる。 NC旋盤やマシニングセンタなど代表的なNC工作機械について理解させる。 産業用ロボットのしくみについて理解させる。

評価の観点	内 容
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度（聞く、ノートをとること）をまじめに取り組んでいるか。 学習活動（出席の状況や質問、返答等）を積極的に行っているか。 機械工作に関心を持ち、意欲的に理解する態度があるか。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 機械加工において適切な加工方法を考えることができるか。 工作機械や最適の切削条件等を総合的に判断できるか。 はっきりとした声で自分の考えが表現できるか。
技能	<ul style="list-style-type: none"> 機械工作にかかわる知識や技術をいろいろな場面で活用できるか。 的確な質問や返答ができているか。
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> 加工方法を考えながら、適切な工作機械を選択できる知識をつけているか。 学習内容を理解し、それを応用できるか。
評価方法	<p>学習の状況は、上記の四つの観点で評価します。 「小テスト」や「提出物（ノート等）」、「定期考査」等による評価も行います。 各学期の成績は以上の観点から評価し100点法で行います。 学年末の成績は各学期の成績を総合的に判断し5段階評定で行います。</p>

学習に対するアドバイスと留意事項
<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業は板書を中心に行います。板書しなかったことも意欲的にノートにとってください。 ○ 演習や資料等のプリントはノートに張り付けてください。 ○ 先生の話をよく聞き、分からないところがあれば積極的に質問してください。 ○ 毎日の勉強が大切です。家に帰ったら習ったところを復習しましょう。

機械土木工学「機械設計」

単位数	2	学科・学年	機械土木工学科・2年 (機械コース)	教科書 副教材等	機械設計1 (実教出版)
-----	---	-------	-----------------------	-------------	--------------

学習目標	<p>機械設計の基礎となる材料力学を理解し、引張強さ、圧縮強さ、せん断力、曲げ応力、ねじり等を的確に求める能力を養う。</p> <p>機械装置を合理的、創造的に設計する能力や態度を育成する。</p>
------	---

学期	学習内容	学習のねらい
1	<p>第3章 材料の強さ</p> <p>1 材料に加わる荷重</p> <p>2 引張・圧縮荷重を受ける材料の強さ</p> <p>3 せん断荷重を受ける材料の強さ</p> <p>4 熱応力</p> <p>5 材料の破壊と強さ</p>	<ul style="list-style-type: none"> 荷重の種類等の用語を確実に理解する。 応力ひずみ線図とその内容を理解する。 荷重と変形量の比例関係を確認し、応力とひずみの比例定数が材質によって一定であることを理解する。 せん断応力、せん断ひずみの定義を理解する。 熱応力が生じる場面を考える。
2	<p>6 曲げ</p>	<ul style="list-style-type: none"> はりに生ずるせん断応力と曲げモーメントを理解する。 せん断力図、曲げモーメント図の作り方を理解する。 断面二次モーメントと断面係数の計算方法を習得する。 はりのたわみ、曲げこわさを理解する。
3	<p>7 せん断ねじりを受ける部材の強さ</p> <p>(1) 軸のねじり</p> <p>(2) ねじり応力と極断面係数</p> <p>8 座屈</p> <p>(1) 柱の座屈</p> <p>(2) 柱の強さ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ねじりがせん断であることを理解させる。 断面二次極モーメントと極断面係数の計算方法を理解させる。 曲折による破壊を理解させる。 強い断面形状を理解させる。

評価の観点	内容
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> 機械設計について興味・関心を持ち、疑問点は積極的に質問するなど意欲的な学習活動を行っている。 ノートの整理が十分にできていて熱心な学習態度で授業に臨んでいる。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 疑問点は自主的に質問をするなどして問題解決に努めている。 既習の内容を十分理解し、応用問題の解決ができる。 グラフや図表などの各種資料を適切に活用し、表現することができる。
技能	<ul style="list-style-type: none"> 例題や課題を理解し、適切に解くことができる。 ノートに各種計算問題における途中の計算過程を分かりやすく表現し、きれいにまとめている。
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> 学習の定着状況が良好で問題解決能力がある。 小テストや課題の達成度が良好である。 身の回りにおける力学的事象について基礎的な計算ができる。 演習問題が理解できる。
評価方法	<p>学習の状況は、上記の四つの観点で評価します。</p> <p>「小テスト」や「提出物（ノート等）」、「定期考査」等による評価も行います。</p> <p>各学期の成績は以上の観点から評価し100点法で行います。</p> <p>学年末の成績は各学期の成績を総合的に判断し5段階評定で行います。</p>

<p>学習に対するアドバイスと留意事項</p>	
<p>○授業は板書を中心に行います。板書しなかったことも意欲的にノートにとってください。</p> <p>○演習や資料等のプリントはノートに張り付けてください。</p> <p>○先生の話をよく聞き、分からないところがあれば積極的に質問してください。</p> <p>○毎日の勉強が大切です。家に帰ったら習ったところを復習しましょう。</p>	

機械土木工学「原動機」

単位数	2	学科・学年	機械土木工学科・2年 (機械コース)	教科書 副教材等	原動機 (実教出版)
-----	---	-------	-----------------------	-------------	------------

学習目標	原動機の構造と機能に関する知識を習得し、原動機を有効に活用する能力と態度を身に付ける。
------	---

学期	学 習 内 容	学 習 の ね ら い
1	第1章 エネルギーの利用と変換 第2章 流体機械 1 流体機械のあらまし 2 流体機械の基礎 3 流体の計測 4 ポンプ 5 送風機・圧縮機と真空ポンプ 6 水車	<ul style="list-style-type: none"> ・人類の進歩とエネルギーの変遷について学ぶ。 ・流体力学を通して、原動機の基本的な作動原理を理解する。 ・各流体機械の分類・構造・原理および性能について理解する。ポンプ、送風機、圧縮機、水車について、それぞれの特徴と種類を学び、活用方法に関する理解を深める。
2	7 油圧装置と空気圧装置 第3章 内燃機関 1 内燃機関のあらまし 2 内燃機関の基礎 3 往復動機関の作動原理と熱効率 4 往復動機関の構造 5 往復動機関の性能と運転 6 ガスタービン	<ul style="list-style-type: none"> ・油圧、空気圧について理解する。 ・熱力学について学び、内燃機関の構造や特色・性能について理解を深める。 ・ガソリン機関とディーゼル機関を学ぶ。 ・機関の名称と機能を理解する。 ・出力・トルク・燃料消費率について学び、内燃機関の性能を理解する。 ・ガスタービンの構造・原理を理解する。
3	第4章 自動車 1 自動車の発達と社会 2 自動車の構造と性能 第5章 蒸気動力プラント 1 蒸気動力プラントのあらまし 2 水蒸気 3 ボイラ 4 原子炉	<ul style="list-style-type: none"> ・自動車の発達と社会生活にもたらす問題について学び、今後の開発の方向性について理解を深める。 ・自動車の構造、性能、安全性について学ぶ。 ・水蒸気の基本的性質について学び、蒸気発生装置であるボイラや原子炉の構造や原理について理解する。また、各装置の特徴や種類について学び、実際の活用方法に関する理解を深める。

評価の観点	内 容
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中まじめに取り組んでいるか。(話を聞く・ノートをとる) ・積極的に学習活動に参加しているか。 ・原動機に対して関心を持ち、意欲的に理解に努めているか。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・原動機に対して広い視野から自ら考え、基礎的な知識と技術を生かして適切に判断し、創意工夫する能力が身に付いている。 ・はっきりとした声で自分の考えが表現できるか。
技能	<ul style="list-style-type: none"> ・的確な質問や返答ができているか。
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・原動機の基礎となる事項を習得できている。
評価方法	<p>学習の状況は、上記の四つの観点で評価します。 「小テスト」や「提出物(ノート等)」、「定期考査」等による評価も行います。 各学期の成績は以上の観点から評価し100点法で行います。 学年末の成績は各学期の成績を総合的に判断し5段階評定で行います。</p>

学習に対するアドバイスと留意事項

- 授業は板書を中心に行います。板書しなかったことも意欲的にノートにとってください。
- 演習問題や資料など、配布したプリントはノートに張り付けて整理してください。
- 先生の話をよく聞き、分からないところがあれば積極的に質問してください。
- 毎日の勉強が大切です。家に帰ったら習ったところを復習しましょう。

機械土木工学「実習」

単位数	3	学科・学年	機械土木工学科・2年 (土木コース)	教科書 副教材等	測量 (実教出版) 新版 土木実習 (実教出版)
-----	---	-------	-----------------------	-------------	-----------------------------

学習目標	座学で学んだ知識を生かし、作業内容及び手順、器械・器具の取り扱い方法などの技術を身に付ける。また、班の中で自分の責任分野と他の班員の任務との関連を理解し、協力して実習を行うことのできる、チームワークを培う。
------	---

学期	学習内容	学習のねらい
1	1 トータルステーションシステムによる外業 (1) 踏査・選点 (2) 測定 (測角・測距) (3) 計算 (閉合トラバース) (4) 細部測量	<ul style="list-style-type: none"> 器械操作、作業手順、野帳の記入が正確にでき、他の者との協力体制の基に、作業中の問題点に対応できる判断力を身に付ける。 計算方法を正確に理解し、トラバース測量が、細部測量などの一連の作業につながっていることを理解する。
2	2 トータルステーションシステムによる内業 (1) 土木科実習教棟トラバース ア トラバース網図の作成 イ 地形図原図の作成 (2) 校内トラバース ア トラバース網図の作成 イ 地形図原図の作成	<ul style="list-style-type: none"> トータルステーションシステムの有効性に気が付き、電子化の意義について学習する。 測量計算ソフトの機能や使用方法を理解する。 すでに求めた座標値をもとに、細部点の座標値を求める方法について理解する。 観測データより、目的に応じた測量図の作成方法について理解する。
3	3 水準測量 (1) 昇降式 (2) 器高式 4 基準点測量 GPS観測	<ul style="list-style-type: none"> 器械操作、作業手順、野帳の記入が正確にでき、他の者との協力体制の基に、作業中の問題点に対応できる判断力を身に付ける。 水準測量の方法に応じた、計算方法を正確に理解する。 スタティック法による観測方法および受信データの解析方法を理解する。

評価の観点	内 容
関心・意欲・態度	・社会基盤における測量の役割と技術について関心を持ち、その知識と技術の習得に意欲的に取り組む姿勢を身に付けようとしているか。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 測量、材料実験に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、他の者との協力体制の下、自ら考え、作業中の問題点に対応できるか。 その成果を適切に表現することができるか。
技能	・作業内容及び手順、器械・器具の取り扱い方法などの技術を身に付け、計算方法を正確に理解しているか。
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> 実習の内容が、土木工事のどのような部分において役立つかを理解しているか。 土木工事の社会における意義や役割を理解しているか。
評価方法	<p>学習の状況は、上記の四つの観点で評価します。 レポート、実習野帳、計算書や実習図面等で総合評価します。 各学期の成績は以上の観点から評価し100点法で行います。 学年末の成績は各学期の成績を総合的に判断し5段階評定で行います。</p>

学習に対するアドバイスと留意事項
<ul style="list-style-type: none"> ○ 安全に作業するには、「きまり」を守り、作業に適した正しい服装 (実習服) を着用してください。 ○ 作業をするにあたっては、気持ちを集中させ、真剣に取り組んでください。 ○ 測量器械は精密なので、丁寧に取り扱いましょう。 ○ 報告書 (レポート) はその日の内に書くようにし、提出日を守りましょう。

機械土木工学「製図」

単位数	2	学科・学年	機械土木工学科・2年 (土木コース)	教科書 副教材等	土木製図 (実教出版)
-----	---	-------	-----------------------	-------------	-------------

学習目標	土木製図に関する基本的な知識と技術を習得し、製作図や設計図を正しく読み、図面を作成する能力を身に付けます。
------	---

学期	学習内容	学習のねらい
1	第1章 製図の基礎と規約 1 製図用機器と製図用紙 2 線、課題1「線の練習」 3 文字、課題2「文字の練習」 4 平面図形のかき方 5 断面 6 寸法	<ul style="list-style-type: none"> 製図機器の種類と使い方について理解する。 ディバイダ、コンパス、定規を活用できるようにする。 線、文字、寸法線、矢印の種類や用途を理解し、確実にかけるようにする。
2	第2章 図面のつくり方と表現 1 課題3「U形側溝工」 2 課題4「道路用鉄筋コンクリートL形側溝」 3 課題5「道路用鉄筋コンクリートU形側溝」 4 透視図	<ul style="list-style-type: none"> 設計製図に使用している符号、記号、表示方法の種類や意味を確実に理解し、図面が描けるようにする。
3	5 図面の表現方法 第5章 CADによる製図 1 CADの概要 2 CADシステム利用の基礎 3 CADシステムを用いた製図の基本 第1章 製図の基礎と規約 7 投影図のかき方	<ul style="list-style-type: none"> 点、線分、円、円弧、文字、寸法線、寸法値などを理解する。 既存の図面に修正を加えて新しい図面を作成することを理解する。 三つの座標軸と同じ角度を保ちながら、単一の投影面上に対象物を正投影する方法を理解する。
評価の観点		内 容
関心・意欲・態度		<ul style="list-style-type: none"> 学習活動に積極的に参加しているか。 土木製図に関心をもち、意欲的に学習しているか。
思考・判断・表現		<ul style="list-style-type: none"> 製図の技能と土木工事についての考え方が密接に関連し、土木工事の技術的な判断が向上でき、図面に表現できているか。
技能		<ul style="list-style-type: none"> 図面に使用している記号等の意味を確実に理解しているか。
知識・理解		<ul style="list-style-type: none"> 製図の技能を向上させることにより、土木技術の知識と施工管理の方法を理解できているか。
評価方法	<p>学習の状況は、上記の四つの観点で評価します。 具体的には、「作品」、「授業態度・取組」、「出席」により評価します。 学年末の評価は、1学期、2学期、学年末の成績を総合的に評価し、100点法と5段階評価で行います。</p>	

学習に対するアドバイスと留意事項

- 先生の話をよく聞き、分からないことは積極的に質問してください。
- 製図機器等の保管、取り扱い方法には十分注意をしてください。
- 自分の製図台周辺の整理、整頓に心掛けてください。
- 作品の提出は、期限を厳守してください。

機械土木工学「測量」

単位数	2	学科・学年	機械土木工学科・2年 (土木コース)	教科書 副教材等	測量 (実教出版)
-----	---	-------	-----------------------	-------------	-----------

学習目標	各種建設工事の計画・設計・施工等、あらゆる場面において測量は必要になる。そのため、測量全般にわたっての知識と技術を習得し、測量の目的・地形の状況に応じて、最も有効な測量方法を選び、実際に活用できる能力を身に付けよう。
------	--

学期	学習内容	学習のねらい
1	第4章 細部測量 1 平板測量の器具 2 平板測量の方法 第6章 測量の誤差 1 誤差の種類 2 測定値の計算処理	<ul style="list-style-type: none"> 平板測量を行うための、知識と技術を理解する。 誤差の起こる原因と適切な消去方法を理解する。 最確値、軽重率、標準偏差の求め方を理解する。
2	第7章 面積および体積 1 面積の計算 2 土量 (体積) の計算 第8章 基準点測量 1 基準点測量の体系と方式 2 基準点測量計画	<ul style="list-style-type: none"> すでに学んだ測量の結果からできた図面を用い、面積や土積を求める方法について理解する。 基準点測量によって設置される基準点は、どのように目的・利用のされ方をしているのか理解する。
3	3 測量計画 4 踏査・選点、測量標の設置 5 観測 6 角の偏心計算 7 計算 8 国土地理院成果表	<ul style="list-style-type: none"> 内業の方法を理解し、計算の結果がほかの人でも点検・検算できるように、常に丁寧に順序正しく記録・整理できるよう習慣付ける。 基準点測量では、新しい測量技術が、どのように活用されているのかを理解する。
評価の観点		内 容
関心・意欲・態度		・測量の役割と技術について興味を持ち、その知識と技術の修得に意欲的に取り組む姿勢が見られるか。実際の測量作業に生かそうとしているか。
思考・判断・表現		・測量に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、諸問題の解決目指して、目標を持って取り組み、自ら考え、自己反省ができているか。
技能		・基本的な知識を身に付け、測量実習で測定したデータを適切に処理することができるか。
知識・理解		・測量に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、社会基盤における測量の意義や役割について理解しているか。
評価方法	学習の状況は、「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「技能」、「知識・理解」の四つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取組」、「小テスト」、「提出物 (ノート)」、「定期考査」により評価します。また、学年の成績は上記の観点から評価した各学期の成績の相加平均とし、5段階法でも評定を行います。	

学習に対するアドバイスと留意事項

- 授業は必要に応じ、板書します。板書しなかったことも意欲的に、ノートにとってください。
- 演習プリント等はノートに張り付けてください。
- 先生の話をよく聞き、積極的に挙手・発表をしてください。
- 定期考査前には授業で解いた問題をもう一度解くと良い結果につながります。

機械土木工学「土木基礎力学」

単位数	2	学科・学年	機械土木工学科・2年 (土木コース)	教科書 副教材等	土木基礎力学1 (実教出版)
-----	---	-------	-----------------------	-------------	----------------

学習目標	土木構造物における力の釣合い、外力と応力及び部材断面の性質などの力学の基礎的な知識について理解する。実際に公式等を活用し、数値を求めることができる技術を習得する。
------	---

学期	学習内容	学習のねらい
1	第1章 構造物と力 1 構造物の基本的形状と種類 2 構造物に作用する力 3 力の釣合い 第2章 梁の外力 1 支点・梁の種類 2 静定梁の反力 第3章 梁の内力 1 構造物の内力 2 単純梁のせん断力とせん断力図、曲げモーメントと曲げモーメント図、軸方向力と軸方向力図	<ul style="list-style-type: none"> ・ 構造物の種類や名称及び力や力のモーメントの基本的な性質を理解する。 ・ 支点の種類と反力の関係及び梁の種類について学習し、反力の計算方法を理解する。 ・ 部材内部に生じる軸方向力と軸方向応力等と求め方と図示方法について理解する。
2	第4章 梁を解く 1 単純梁を解く 2 各種の梁を解く 第5章 梁の影響線 1 移動荷重と影響線 2 単純梁の影響線 3 各種の梁の影響線	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各種の梁にいろいろな荷重が作用したときの反力・軸方向力・せん断力・曲げモーメントの解法を一貫して理解する。 ・ 荷重が移動する場合の梁の計算方法について理解する。
3	第6章 梁に生じる応力 1 部材断面の性質 第7章 応力と材料の強さ 1 応力とひずみ 2 許容応力度と安全率	<ul style="list-style-type: none"> ・ 部材断面の図心や断面二次モーメント、断面係数、断面二次半径及び核点について理解する。 ・ 外力により部材内部に生じる応力と変形の関係について理解する。
内 容		
評価の観点		
関心・意欲・態度	・ 土木構造物に興味や関心を持ち、その働きを理解しようとする。構造物の力学について、主体的に学習に取り組む姿勢がある。土木技術者としての望ましい心構えや態度を身に付けようとしている。	
思考・判断・表現	・ 土木構造物に関する力学的な事象を的確に把握することができる。構造力学の基礎的・基本的な知識と技術を活用し、さまざまな角度から考察して、安全な構造物を造るための要点を的確に判断することができる。また、それらの過程や結果およびそこから導き出される考え方を的確に表現できる。	
技能	・ 土木構造物に関する力学的な理論を把握し、各公式を活用して、力学的な数値を計算することができる。また、力学的性質を表す各種の図やグラフを正しく描くことができる。	
知識・理解	・ 土木構造物の種類とその働き、構造物にかかわる力学について、基礎的・基本的な知識・技術を身に付けている。また、建設工事にもなう力学的諸問題に対して、その活用、応用方法を理解している。	
評価方法	学習の状況は、上記の4つの観点で評価します。具体的には、「出席」、「授業態度・取り組み」、「小テスト」、「提出物（ノートなど）」、「定期考査」により評価します。また、学年の成績は上記の観点から評価した各学期の成績の相加平均とし、5段階法でも評定を行います。	

学習に対するアドバイスと留意事項

- 授業中は集中をし、分からない箇所があればその日のうちに質問をしてください。
- 授業ノートを考査の区切りごと提出させます。また、課題を長期休業中に出します。提出期限に遅れないように注意をしてください。
- 授業を休んだ場合は、ノート記入等事後対策を必ずしておいてください。

機械土木工学「土木施工」

単位数	3	学科・学年	機械土木工学科・2年 (土木コース)	教科書 副教材等	土木施工 (実教出版) 2級土木施工管理技士受検対策 テキスト (日建学院)
-----	---	-------	-----------------------	-------------	--

学習目標	土木工事に使われる材料について、その種類・特徴を学習する。 土木工事に必要な知識や技術を学習することにより、将来、土木施工管理技士となるための基礎をつくる。
------	---

学期	学 習 内 容	学 習 の ね ら い
1	第1章 土木材料 1 土・岩 2 木材 3 鉄鋼材料 4 歴青材料 第2章 土工 1 土工計画・土工機械 2 土工の実施	<ul style="list-style-type: none"> 土木材料の種類や特徴・性質について理解する。 土工事に使う機械の名称や特徴・施工法を学び、工事管理の基本を理解する。
2	第3章 コンクリート工 1 コンクリートの材料、性質 2 コンクリートの配合 3 コンクリートの施工	<ul style="list-style-type: none"> コンクリート材料の種類、性質を理解する。 コンクリートの配合上の注意事項や施工時の基礎的知識を理解する。
3	第4章 基礎工 1 基礎の種類 2 基礎の工法 3 地盤の改良工	<ul style="list-style-type: none"> 基礎地盤の種類と基礎の種類、工法との関係について理解する。 軟弱地盤に対するいろいろな工法を学習し、理解する。

評価の観点	内 容
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> 学習活動に積極的に参加しているか。 土木施工に関心を持ち、意欲的に学習しているか。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 環境にやさしい国土づくりのために、土木工事のあり方をどのようにしていけばよいかを、総合的に判断できるか。
技能	<ul style="list-style-type: none"> 土木構造物の基礎となる材料・土工・コンクリート工・基礎工において、基本的な工事の流れを習熟し、工法の選択ができるか。
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> 材料・土工・コンクリート工・基礎工において、施工管理の基礎的知識を理解し、現場で役立つ力を身に付けているか。
評価方法	<p>学習の状況は、上記の4つの観点で評価します。具体的には、「出席」、「授業態度・取り組み」、「小テスト」、「提出物（ノートなど）」、「定期考査」により評価します。また、学年の成績は上記の観点から評価した各学期の成績の相加平均とし、5段階法でも評定を行います。</p>

学習に対するアドバイスと留意事項
<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業は必要に応じ、板書します。板書しなかったことも意欲的に、ノートにとってください。 ○ プリント等はノートに貼り付けてください。 ○ 先生の話をよく聞き、わからないことは積極的に質問してください。 ○ 定期考査前には授業で解いた問題をもう一度解くとよい結果につながります。

機械土木工学「社会基盤工学」

単位数	2	学科・学年	機械土木工学科・2年 (土木コース)	教科書 副教材等	社会基盤工学 (実教出版)
-----	---	-------	-----------------------	-------------	---------------

学習目標	産業や経済の基盤を支え、国民が豊かで、住みやすい社会生活を営める社会基盤を整備するための技術を理解する。また、自然災害の多い国土において災害を防ぎ、地球環境を保全しながら社会基盤を整備する土木事業を理解する。
------	--

学期	学 習 内 容	学 習 の ね ら い
1	第1章 暮らしと社会基盤 1 社会基盤の整備と土木事業 2 暮らしを支えてきた土木技術 3 国土計画と社会基盤の整備 第2章 交通・運輸 1 交通・運輸のあらまし 2 道路 3 鉄道	<ul style="list-style-type: none"> 社会基盤整備の現状を理解し、環境、災害などを考えて進める土木事業の重要性とその役割を理解する。 総合的な国土計画を理解し、土木技術の果たす役割を理解する。 交通輸送のあらましを理解し、道路や鉄道の施設について理解する。
2	4 港湾 5 空港 6 都市交通施設 第3章 水資源 1 水と人のかかわり 2 利水 3 治水ー水にかかわる災害の軽減ー 4 生活用水と排水 5 水環境の保全と回復	<ul style="list-style-type: none"> 港湾、空港の施設・設備について理解する。 都市鉄道や新交通システムについて理解する。 土砂災害や洪水などによる災害のない治水事業や利水を理解する。 自然に優しい水辺の環境整備について理解する。
3	第4章 暮らしとまちづくり 1 都市と都市計画 2 都市の再生 3 エネルギーの整備 4 災害と防災 5 循環型社会の形成	<ul style="list-style-type: none"> 都市整備の現状、課題、重要性とその役割について理解する。 地球温暖化や環境破壊の問題を考えたエネルギーの整備について理解する。 建設廃棄物のリサイクルの現状を理解し、今後の課題について理解する。
評価の観点		内 容
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> 学習活動に積極的に参加しているか。 社会基盤の整備に関心を持ち、意欲的にそれらを探究する態度を身に付けているか。 	
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 安全で暮らしやすいまちづくりのために、社会基盤をどのように整備していくかを、総合的に判断できるか。 	
技能	<ul style="list-style-type: none"> 社会基盤は我々の生活や産業にとって必要不可欠であることを自覚し、これからの整備の重要性を表現できるか。 	
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> 環境や景観に配慮しながら、適切な社会基盤の整備を計画し、安全で経済的な工事を進める知識を身に付けているか。 	
評価方法	<p>学習の状況は、「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「技能」、「知識・理解」の四つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取組」、「小テスト」、「提出物（ノート）」、「定期考査」により評価します。また、学年の成績は上記の観点から評価した各学期の成績の相加平均とし、5段階法でも評定を行います。</p>	

学習に対するアドバイスと留意事項

- 授業は必要に応じ、板書します。板書しなかったことも意欲的に、ノートにとってください。
- 演習プリント等はノートに張り付けてください。
- 先生の話をよく聞き、積極的に挙手・発表をしてください。
- 定期考査前には授業で解いた問題をもう一度解くと良い結果につながります。